かんぽ

緩歩（かんぽ）

『緩歩』とは
ゆっくりと
歩むこと。

心をこめて
お迎えを―

お盆飾り

#3

お盆のお飾り

お盆とは、新暦の七月、旧暦では八月のいずれも十三日～十六日の朝まで、亡き人やご先祖様をお家にお迎えしてご供養をする、日本各地で宗派を問わず行われる国民的な習慣です。それぞれの家、地域で飾りやお供え物に様々な特色があります。

まずは、菩提寺にお参りし、お墓を掃除してお迎えの準備をします。お家に迎えてからは、「居ますが如く」という古来からのおもてなしの想いを背景に、その表現が、家ごと、地域ごとに変わります。

現在の住宅事情では昔のように棚を置けない、満足に飾れないということがありますが、たとえそうであってもできる範囲でご先祖様に喜んでいただけるよう工夫し、心がこもったご供養ができれば何よりのことです。

ここではできるだけ一般的な飾り方、お供物を紹介いたしますが、より詳しくお知りになりたい方は菩提寺さまにお尋ねください。

棚飾りの一例

お飾りのいろいろ

精霊牛・精霊馬

ご先祖様をお迎えし、お送りする乗り物です。キュウリで馬を、ナスで牛を作ることが一般的です。馬で早く帰って来て、牛でゆっくり戻ってもらうという言い伝えがあります。藁や木、布等で作ったものが売られているのもよく目にします。

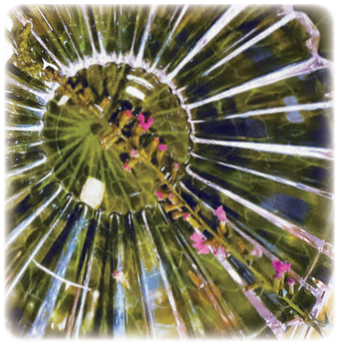
家ごとの工夫が一番表れやすい飾り物です。

みずのこ

みずのこは蓮やイモの葉（普通のお皿でも可）に、賽の目に刻んだキュウリやナスと洗米を乗せたものです。ご先祖様含め、この世のすべての精霊にも普く食べ物が行き届きますようにという思いがこめられています。

ミソハギ

ミソハギは盆花、精霊花ともいわれ、精霊を呼び寄せる花と伝わっております。逆さ飾りや、水をお供えするときに一緒に置きます。



逆さ飾り・五如来幡

お盆の正式な名称は盂蘭盆です。盂蘭盆という言葉の意味がインドの言葉で逆さづりを意味するので、それにちなんだ飾り方が逆さ飾りです。飾るものは家や地域によって様々です。また、菩提寺様から五如来幡を頂くことがあります。七夕の短冊の由来ともいわれる飾りですが、五人の如来さまをお祭りすることで功徳を頂くという意味があります。写真のように飾ってください。

ホオズキ

ホオズキは精霊を迎え入れるための提灯に似ているために飾ります。主に逆さ飾りに使われることが多いです。

お膳・カゲゼン

お盆では、塗りのお仏膳を使うこともありますが、写真のように経木のお膳をあげるところも多いです。またお箸の代わりに麻がらを使います。献立は地域や家によって様々で、初日は「〇〇」を、というように日によって決まっていることもあります。ご飯やお味噌汁が基本ですが、素麺や季節の煮物、あんこを使った甘いもの等や、故人様・ご先祖様の好きだったものをお供えしても大丈夫です。

カゲゼンとは、通常、長期間家を空けている人のために、残った家族がその人の健康を願いご飯を供えることですが、地域によってはお盆の時に祀り手のない仏さまのためのお供えのことを言います。最近では知っている人も少なくなりましたが、「どなたでもお召し上がりください」という施食の教えに即した大切なお供えですので是非実践してみてください。

お位牌、ロウソク、生花、お水、お茶、お膳、季節の果物、菓子、ご先祖様の好きだったもの等を飾ってください。

お盆では特に真菰という敷物や蓮の葉の上に供物を飾ります。竹や笹で四方をかこむこともあります。

写真ではイミテーションのお供物ですが、出来る範囲で本物の果物やお菓子をお供えください。

地域で異なる棚飾り

棚飾りは県内だけでも地域によって様々な特色が見られます。

焼津・藤枝などの地域では平らな盆棚を使って飾ることが多く、静岡市や、静岡県東部では段飾りの盆棚が多いようです。

また、お仏壇の前に飾ることも近年では増えています。

焼津・藤枝地区の例

静岡市や県東部での例

迎え火 送り火 精霊流し

巴川の灯籠流し

焙烙と松明

迎え火はご先祖さまをお家にお迎えするための儀式です。新旧の盆月の十三日に行うことが多いです。お墓の前や自宅の前等で写真にあるように焙烙というお皿の上で松明の木を燃やします。

送り火はご先祖様をお家から元いた世界に送るための儀式です。十六日の朝に行うことが多いです。やり方は迎え火と同じです。

送り火は川や海に灯篭を流す精霊流しのお祀りが各地に見られます。長崎の精霊流しなどはご存じの方が多いのではと思います。写真では七月に行われる清水区の巴川灯篭流しの風景を紹介しています。

お飾りは、お寺や自治会で回収しています。詳しくは菩提寺様にお尋ねください。

曹洞宗とは

曹洞宗とはお釈迦さまをご本尊とし、歴代の祖師が相承してこられた御仏の教えにしたがい、正しい信仰生活を送ることを宗旨としております。

両祖として仰ぐ道元禅師と瑩山禅師は、坐禅を中心とした生活の全てが御仏の行いであり、その功徳を普く人々に回らせなさいとお示しくださいました。多くを求めてしまう生き方を見つめ直し、自己をつつしみ、ともに思いやり、分かち合う心豊かな社会の実現を、常に願っております。

曹洞宗管長 江川辰三禅師のお言葉より抜粋

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会 広報誌

かんぽ

第3号

[発行]

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会

[編集]広報委員会　[発行日]令和2年4月1日

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会は、西は島田市から東は小山町までの、40歳以下の曹洞宗青年僧侶で構成されています。